

# 卒業生謝辞

平成19年度卒業生代表 日永田 美穂

かたく閉じていた桜のつぼみもほんのりと色づきはじめ、春の足音がきこえる季節となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式を挙げて頂き誠にありがとうございます。卒業生一同心よりお礼申し上げます。

思い起こせば、真新しいスーツに身を包み期待と不安を抱え、緊張した面持ちで、迎えた入学式からあっという間に4年の歳月がたちました。

私たちは今、大学生活を終え、新たな明日へ歩みだそうとしています。多くのかけがえのない友人や諸先生方と過ごした数々の思い出が昨日のここのように甦り、とても名残惜しい気持ちで一杯です。4年という月日はあっという間でしたが、大学生活でしかできない多くのことを経験できた有意義な4年間でした。私は、大学生活を通じ「自己責任」ということを考えさせられ、自分自身の考えと判断によって行動しなければならないということ学びました。そして、本学の建学の精神であります仏教との出あいは、自らがこれからどのように生きていくのかということについて、深く見つめることのできた時間であり、また、私たちが今ここに存在しているのは多くのモノや人に支えられているからであることを改めて感じることであった機会でした。

アジア文化学科での私自身を顧みますと、日々の講義の中では、先生方の熱のこもったご指導により新たな知識を得ることへの感動が溢れ、今まで狭い世界で生きてきた自分があまりに未熟で、小さな人間だと感じました。アジアは世界中から注目されている場所です。アジア文化学科というアジアの世界にひたることのできる環境で学んだことは、私の視野を広げるための有意義な時間でした。様々な国籍の先生方と意見を交換しながら、物事をあらゆる方向から考えることができ、答えは決して、一つではないという事を学びました。グローバル化の中で一つのことに固執した偏った考え方ではなく、何事にも柔軟に対応できる考え方を持つことができるようになったと思います。今一つ私がひとまわりもふたまわりも成長できたのは、韓国との出会いでした。韓国語を覚えたいと思い、独学で勉強をはじめ、それから国境を越えて友達を作りました。自らが積極的に行動することが、日々の生活に新しい出会いを生み、楽しい大学生活をおくることにつながったのだと振り返ることができます。

日本の国際交流、特に人的交流がいつそう盛んになる中で、私は、興味を持って日本を訪れる外国人との架け橋になりたいと思い、法務省入国管理局に就職することができました。国際化、情報化が急激に進む現代、次々と新しい価値観が生まれ、新しい社会が形成されています。私たちは世界に目を向け、失敗を恐れず大きく翔いていける社会人を目指していきます。

私たちはこれから多くの人や物、様々な出来事に会い悩んだり落ち込んだり時には大きな壁に阻まれることもあるでしょう。しかし、筑紫女学園で学んだ教えや経験を心の糧とし、自信をもって邁進していきたいと思っています。

私たちには光り輝く未来があると信じ、一生の宝物である友人達とともに励ましあいなら、どんな時も前を向いて一歩ずつ歩んでいきたいと思います。

最後になりましたが、今日こうして、卒業の日を迎えられたのも、時には厳しく、また時には優しくご指導頂いた先生方、職員の皆様、互いに励ましあった友人たち、そして、いつも温かく見守り、支えてくれた家族のおかげだと心より感謝いたします。

これからの筑紫女学園大学の益々の御発展と皆様方の御多幸を念じ申し上げ、卒業生代として心からのお礼とお別れのあいさつとさせていただきます。

